



みんなで支える“いのち”と“暮らし”

富山市は、医療や介護が必要になっても可能な限り住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療や介護等を一体的に提供できる体制の構築に取り組んでいます。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、医療や介護の現場では平時とは違う対策を模索した一年でした。コロナ禍における、まちなか総合ケアセンターでの取り組みを紹介します。

医療介護連携研修会に関するアンケート

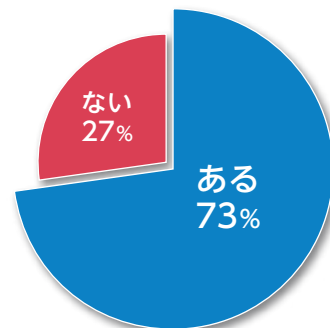
新型コロナウイルス感染拡大による医療介護現場への影響や経験を共有するため、アンケートを実施しました。アンケート結果の概要は、まちなか総合ケアセンターホームページに掲載しています。

対象事業所：訪問介護・訪問入浴・訪問看護ステーション、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター 564 事業所



関係者（サービス事業所・医療関係者・家族等）との連携や情報共有するうえで困難だったことはありますか？

関係者との連携や情報共有で困難だったこと



- ・退院時カンファレンスが行われなため、利用者の情報が得にくい。
- ・サービス担当者会議を行えないため、情報共有が難しい。

- ・正確な情報を得にくかった。
- ・情報が二転三転した。
- ・ケアマネジャーが在宅ワークのことが多く、連絡が取りにくかった。

- ・キーパーソンが県外在住で連絡をとるのに苦労した。
- ・利用者が発熱した時、医療機関に連絡したが、診てもらえるまで時間がかかった。

- ・感染対策のため複数のサービス事業所を一本化する必要があったが困難だった。
- ・電話での情報収集では、本人の表情や様子がわからず変化の有無が把握しにくかった。
- ・在宅勤務中、自宅に利用者情報を持ち帰れないため、サービス調整が困難だった。

- ・独居の方が利用していたサービス事業所がサービス提供できなくなり、介護サービスを受けられなくなってしまった。

- ・正しい感染情報を得るまでに時間がかかった。
- ・PCR検査の結果の情報がなかなか入ってこず不安だった。



医療介護連携研修会

地域の医療・介護関係者等の連携を推進することを目的に研修会を開催しています。アンケートでは、感染症・感染対策の基本的なことを知りたい、他事業所の取り組みを知りたいとのご意見がありました。そこで令和2年度は、コロナ禍における感染症対策や介護施設での取り組みを情報共有しました。

第1回 9月17日(木) 会場参加 29名、オンライン参加 76名

講義

「感染対策について」

■富山赤十字病院
感染管理認定看護師 亀山 礼子 氏



参加者の声

- 基本的な感染対策を忠実に守ることの大切さがよく理解できた。
- 医療現場の大変さがよく分かった。
- 知っているつもりの情報の中で現場に活かせていないこともあり、大変勉強になった。すぐに職場での取り組みを振り返り、改善できることから取り組んでいけたらと思った。
- 自分を守ることで、そして患者さん・利用者さんにうつさないことを心がけたい。

報告

「コロナ禍における事業所での取り組み」

■射水万葉会天正寺サポートセンター
荒山 浩子 氏
■岩瀬・萩浦地域包括支援センター
青木 直美 氏



参加者の声

- コロナ禍でいかに利用者さんに日常生活を送っていただくか、試行錯誤し対応している状況がよく分かった。
- スタッフ誰もが対応できるように記録を共有することの大切さ等を感じ、基本に立ち返ることができた。
- 利用者の方と一緒に楽しく過ごせる行事を考え、重度化しない取り組みを行っており参考になった。
- 大変な中、利用者さんのことを考え、楽しみを見つける工夫がされていた。

会場とオンラインを併用して開催しました

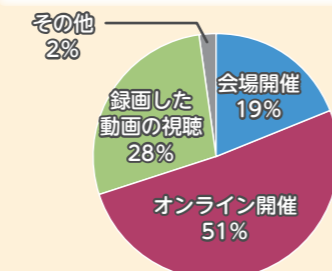
今年度は、会場の消毒や換気、参加者のマスク着用・手指消毒の徹底等感染対策を行いました。また、密を避けるため会場の参加者数を減らし、より多くの方に参加してもらえようオンライン研修を併用することになりました。会場・オンラインの併用開催は初めての試みで、途中音声や画面が途切れる等のトラブルもあり、手探りで開催となりました。オンライン研修参加者へのアンケートでは、約半数がオンラインで開催する研修会が参加しやすいとの回答がありました。医療・介護関係者等の連携推進と顔の見える関係づくりとなるように、皆さんが参加しやすい研修会を開催していきます。



パソコン (Web会議システム)

ウェブカメラマイク

研修会はどのような開催方法が参加しやすいですか？



医療介護資源把握調査※)にて、新型コロナウイルス感染症対策のエピソードをお聞きしました。一部をご紹介します。

- ・利用者さんやご家族から温かい励ましの言葉をたくさんいただいている。
- ・近所の方から励ましの言葉をいただいた。
- ・利用者さんの日頃の体温など、今まで以上に体調に気を配るようになった。
- ・マスクやハンドクリーム等を寄付していただいた。
- ・他事業所から「どこもみんな大変だね。頑張ろう！」と同じ介護を行う立場で励ましあえたことがうれしかった。
- ・外部のボランティアをお断りしていたが、リモートを提案していただき、小学校の児童と利用者さんが交流することができた。
- ・ガラス越しの面会で、それぞれがガラスに手を押し当て、涙ぐみながら短いひと時を言葉少なに心の交流をしている。施設に入居している高齢者にとっていかにご家族の存在が大きいかを再認識した。
- ・介護事業所というだけで冷たい目でみられたように感じるがあった。
- ・連日、ピリピリしながら従事している。
- ・普段、字を書こうとしなかった入所者さんが、県外に住むご家族からの手紙へ返事を書かれた。

※) 医療介護資源把握調査：市内の医療と介護の資源（医療機関や介護サービス事業所、訪問看護ステーション、薬局など）についてアンケート調査し、情報をホームページで公開しています。「富山市くらしを支える医療と介護の情報」 URL <https://machinaka-care.city.toyama.lg.jp/mnr/top.aspx>

第2回 10月15日(木) 会場参加 21名、オンライン参加 67名

報告

「何を守ったのか・どのように守ったのか」

■地域密着型特別養護老人ホーム
ささづ苑かすが 古柴 政美 氏



参加者の声

- 感染症対策の取り組みが臨場感そのままに伝わってきた。感染が広がらず利用者、職員を守られたことは素晴らしい。
- 大変なご苦労をされた様子を聞いて涙が出てきました。職員教育の重要性、また情報発信をされたことで地域からの信頼が得られたことが勉強になった。
- 早期に対応し、職員の皆さんが一丸となったことで現状を解決できたのではないかと思います。
- 利用者さんを「普段通り」で守った職員の皆さん、素晴らしい！

報告

「コロナ禍における事業所での取り組み」

■ふくし百選デイサービスあずみ
直江 拓哉 氏
■光風会訪問看護ステーション
小原 留美 氏



参加者の声

- 正しい情報の収集や、日ごころからの事業所内、他事業所との連携の大切さを感じた。
- 事業所内で頻回に話し合っただけで体制を考へており、努力が見て取れ素晴らしいと思った。
- 自分たちの事業所での取り組みは間違っていないと確認できた。また新たに取入れたことも情報収集できた。
- 訪問サービス事業所間での感染対策を共有する必要があると思った。

在宅療養支援モデル事業の取り組み



在宅医療・介護と救急医療の連携を推進することを目的とし、在宅療養支援モデル事業を実施しました。
在宅療養者等の救急搬送時における関係者とのスムーズな情報提供のためのツールとして「情報提供書」を作成しました。

【使用方法】

- ①情報提供書の「事前記載事項」を事前に記載する。
- ②救急搬送時に「通報時の記載事項」を記載し救急隊員に渡す。

【情報提供書】

★この用紙は救急搬送時に救急隊にお渡しください★

救急搬送時の情報提供書

記載者
(医師等)

TEL

事前記載事項	作成日	令和 年 月 日			
	ふりがな 氏名	(男・女) 生年月日		年 月 日	
	住所				
	病気	感染症 なし・あり アレルギー なし・あり ペースメーカー等の医療機器の装着 なし・あり			
	処方されている薬	お薬の内容が分かる書類(お薬手帳等)を添付			
	かかりつけ医療機関	病院名	担当医師()	TEL()	
	治療に対する希望	意思決定者()			
	家族等の緊急連絡先	氏名	続柄	TEL	
		氏名	続柄	TEL	
	要介護度	要支援 1 2	要介護 1 2 3 4 5	<input type="checkbox"/> 障害者手帳()	
ADL	移動	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	食事	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	
		<input type="checkbox"/> 独歩 <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> 車椅子	排泄	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助	
その他特記すべき事項					

通報時の記載事項	発見者名	発見者の連絡先				
	発見した日時	年 月 日		時 分 ころ		
	発見時の状況、主な訴えや症状等	<input type="checkbox"/> 顔面蒼白 <input type="checkbox"/> 吐き気・嘔吐 <input type="checkbox"/> 吐血 <input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> 胸痛 <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 冷や汗 <input type="checkbox"/> けいれん <input type="checkbox"/> 失禁 <input type="checkbox"/> 呼吸苦 <input type="checkbox"/> イビキ呼吸 <input type="checkbox"/> 上手くしゃべれない <input type="checkbox"/> 麻痺 <input type="checkbox"/> 黄疸 <input type="checkbox"/> その他				
	①呼びかけに	<input type="checkbox"/> 反応あり	<input type="checkbox"/> 反応なし			
	②意識の経過	<input type="checkbox"/> 変わらない	<input type="checkbox"/> 改善している			
	③特記事項	<input type="checkbox"/> 波がある	<input type="checkbox"/> 悪化している			
	※血圧	/ mmHg	※呼吸	回/分 ()		
	※体温	℃	※脈拍	回/分 ()		
	※かかりつけ医の指示	なし・あり ()		同乗者	なし・あり ()	
	家族への連絡	未・済(病院へ向かう家族) なし・あり(誰が)				
救急隊が記載		消防覚知	時 分			

A5サイズからA4サイズに拡大コピー(141%)してご使用ください。
様式は、まちなか総合ケアセンターホームページに掲載しています。

モデル事業実施施設の感想

救急隊からの入所者についての聞き取りが短時間で済んだ。

発熱している利用者につき添って救急車へ同乗できない場合もあったため、情報提供書が役立った。

情報提供書を前もって書くことで、入所者の日頃の体調や特記すべきことを整理することができた。